

東京病院ニュース

第67号



発行元 独立行政法人 国立病院機構 東京病院
〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1
TEL 042 (491) 2111 FAX 042 (494) 2168
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~tokyo/>

新年を迎えて

国立病院機構東京病院院長 大田 健

新年おめでとうございます。今年は戊戌（つちのえ・いぬ）年です。犬については昔から人間社会にとけ込んでとても親しみを感じる動物です。忠犬ハチ公のエピソードで想起されるように物事に忠実で誠実に対処することを特徴として感じます。まさに我々医療従事者にとって基本となる心構えのひとつだと考えられます。また、十二支の戌に関しては、これまでの努力が報われて結実する年ともいわれており、これまでの当院の取り組みに良い結果がでることを期待したいと思います。さらに戌という漢字はもともと滅ぶという意味で、昨年酉年で収穫された後に新たな種子が出来るという解釈がなされており、そこから芽が出て新しい生命へと繋がるという、バトンタッチの意味も持っています。図らずも平成30年は、私の6年間の院長職が3月末で終了する年であり、新たな院長へと引き継ぐ年になります。私の在任中に頂いた皆様方からのご支援とご協力に心から感謝し、3月までの3か月を全力で駆け抜ける所存です。

東京病院に赴任した一年目に感動した四季折々の自然の移ろいとして、桜の花から始まって、カルガモのヒナの成長、エゴノキの白い花、生い茂る夏草と真っ赤な百日紅の花、秋の紅葉、ひっそりと咲く寒椿、古木に咲く見たこともないスケールの梅、きれいなピンク色に咲く桃、真っ白いこぶしの花が裏切ることなく毎年繰り返され安心と元気をもらいました。そしてこれまでの6年間、恵まれた自然と設備の整った立派な建物、すばらしいスタッフの揃った当院は、もっと社会に認知され広く利用されなくては“もったいない”と強く感じながら、各方面にわたる皆様の協力を得ていろいろな方策を考え実行して参りました。最後の大きな人事としては、新年を迎えて特命副院長として国立病院機構相模原病院臨床研究センター リウマチ性疾患研究部長の當間重人先生を迎えました。当院の新たな診療科としてリウマチ科を開設することにより、地域医療の充実にさらに貢献できるものと期待しております。

「自分や自分の家族がかかりたい病院」を念頭に、患者さんにとって快適で充実した医療を受けられる病院、職員全員にとって忙しくても気持ちよく楽しく仕事のできる環境を作り上げ、さらに東京病院が発展するように新病院長へと引き継いで参る所存です。本年も当院をどうぞよろしくお願い申し上げます。



平成30年1月吉日

眼科の紹介

眼科医長 上甲 覚

[はじめに]

物語には、いろいろな「キャラ」の人物が登場します。例えば、「オレ、オレ、オレ。オレの手術は、100%成功！失敗しない、その数・・・35億。他に選択の余地なし。」の決めセリフ。その名もドクター・オレ様ファースト [略してドクター・O (オー)]。100パーセント架空の話とはいえ、このような「自己申告」を信じる程、人は受け身で無自覚には生きてはいないと思います。

さて、話が大きく横道にそれる前に、本題の「眼科の紹介」に入ります。

患者に信頼され、また受診にあたり、わかりやすい指標となる情報を提供するのが、今回の目的となります。他施設との差別化をはかるために、具体的に記載しました。他者との「ほんの少しの差異」が大きな意味を持つポストモダンらしく。

注意していただきたいのは、この文章は他者との優劣について書いたものではありません。「ほんのチョットの違い」がありそうな「眼科の看板メニュー」を中心に記載しました。

[柱となる分野]

上甲は、主に白内障手術、眼瞼下垂症手術を中心に行っています。手術の難しい症例の学術論文をいくつも発表しております。

中山は、緑内障、糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞症に対するレーザー治療。今後、黄斑浮腫の抗VEGF薬物療法は、本格的に稼働予定。

[自称：モデル眼作家？]

上甲は、数年前から次世代の手術練習用モデル眼を独自に開発しています。手軽に低予算で眼科手術のトレーニングができる新しい方法です。その結果、手術の達人が世の中にあふれ、「ゴッド・ハンド」という前近代的な言葉を「野辺送り」できる？と、健気な動機で、本人は至ってまじめに取り組んでいます。もちろん、モデル眼作家としての収入はゼロです。

また、かわいそうなぐらい社会的な認知もゼロです。

[平成29年度の学術論文]

ご存じの通り、すでに教科書に書かれている内容は、学術論文にはなりません。本年度の2つの論文に簡単な解説を加えました。この分野では「キャラが立つ」眼科であると、承認していただければ幸いです。

①上甲 覚：消しゴムを利用した眼内レンズ強膜内固定術の練習用モデル眼の試作. あたらしい眼科34 (4号) : 589-592p, 2017年

解説：市販の消しゴムで、新しいモデル眼を開発しました。眼内レンズを特殊な方法で、目の中に固定する練習が、低予算で手軽にできるモデル眼の論文です。トレーニングを積むと、人馬一体。不思議と、手術器具が体の一部のような感覚が得られます。意のままになる、「ゾーンに入る」瞬間です。直径0.05mm以下の手術で使う縫合糸も、難なく使いこなせるようにもなります。

②上甲 覚：角膜混濁と病的近視のある成熟白内障に超音波白内障手術を行った1例.あたらしい眼科34 (11号)：1606-1609p, 2017年

解説：極めて難しい白内障の手術結果と対策を論じています。角膜混濁・病的近視・成熟白内障に対応するための手術手技の習得方法も考察。

興味を持たれ、詳細を知りたい方は、実際の論文を手に取り読んでみてください。

[平成29年度の学会等での発表]

①東京病院の第9回市民公開講座 (2017年7月23日)

中山は、「網膜静脈閉塞症と糖尿病黄斑症の薬物療法」のタイトルで、上甲は「難しい白内障手術」のタイトルで発表。当院眼科の柱となる分野を一般の人向けにわかりやすく解説しました。

②日本臨床眼科学会 (2017年10月14日)

日本最大級の眼科の学会で、上甲 (筆頭演者) と中山 (共同演者) が、「新しい眼科手術練習用モデル眼の試作」のタイトルで発表。眼科手術練習用モデル眼の最新作。詳細は省きます。

[平成29年度の手術件数]

昨年度に比べて、手術件数は約6倍になる予定。ニーズに対応するため、手術の時間枠を増やしています。ただし、バブル経済のように崩壊しないよう、常に質の高い医療を提供する努力が求められます。99%の努力 (トレーニングも含む) です。汗をかくことは、人に感動を与えます。ただし、最高のパフォーマンスを発揮するためには、アンサンブヒーロー・ヒロインの後方支援も必要不可欠であります。なぜなら、手術は身近なスタッフとの息の合った共同作業だからです。

[おわりに]

本文は、真摯に本年度の業績を中心に記載した「ホットなニュース」であり、「フェイクニュース」ではありません。多少「流行」の言葉をコピペしていますが、本人はビシッと決めたつもりで書いております。

待て、しかしして…この独り善がりの「自己申告の文章」に価値があるのか、それを決めるのは「他ならぬ」あなた自身です。もし東京病院の眼科でよければ受診してみてください。お待ちしております。

『清瀬ホスピス緩和ケア週間』のイベントを開催しました

緩和ケア認定看護師 村山 朋美

緩和ケアについて知っていただくために・・・

「世界ホスピス緩和ケアデー（World Hospice & Palliative Care Day）」を最終日とした一週間を「ホスピス緩和ケア週間」とし、世界各国のホスピス緩和ケア関連施設や団体が、様々なイベントを開催しています。今年も、10月8日（日）～14日（土）をホスピス緩和ケア週間とし緩和ケアの普及啓発活動の取り組みが、各地で行われました。

清瀬市では、2012年から近隣の4病院（信愛病院・複十字病院・救世軍清瀬病院・東京病院）が協働し、ホスピス緩和ケア週間のイベントを行っています。

9月から緩和ケアに関するパネルとウイッシュツリー（お願い事の木）を各病院と西友のクリアギャラリーに展示しイベント当日は東京病院を会場とし、午前中に講演会とミニシンポジウム、祈りのコンサート、午後は、3か所の病院をまわる緩和ケア病棟見学ツアーを開催しています。



皆さんのお願いごとと共に色とりどりの葉っぱでいっぱいになりました

今年も10月14日（土曜日）
テーマ；『地域でつながる・
支援する緩和ケア』

＜講演会＞
がんと向き合い対話する場所
が町にある。

＜シンポジウム＞
がん患者・家族を支援する取
組み、自分の足で自分の人生
を歩むために



講演会「マギーズ東京のめざすもの」 緩和ケア病棟見学ツアー



シンポジウム

がんになって戸惑い悩んだ時にどうすればよいか、多くのがん患者さんや家族を支えてきた支援者の方々と患者と家族の両方を経験された方にお話をいただき、病気との向き合い方や考えが深まりました。



ホスピス緩和ケア週間の開催メンバー

清瀬市長にもご参加
いただきました

音楽療法士による祈りのコンサート

～イベントに参加された市民の方からいただいた感想の一部抜粋～

「がんの治療法がなくなって選択するのが、緩和ケアだと思っていましたが、がんの治療中から緩和ケアを受けられると知り安心しました。」

「この地域でこんなに多くの緩和ケアが、受けられるシステムが整っていることは、この地で暮らす者にとって幸せなことと思いました。」

平成29年度リハビリテーション研修Ⅱを終えて

回復期リハビリテーション病棟
看護師長 関戸信江

北海道～九州 全国のNHO、NC、ハンセン病院から
看護師対象リハビリテーション研修受講生の方が東京病院に集合しました

12月4日・5日の2日間、看護師を対象としたリハビリテーション研修が行われ、日本各地より41名の研修生が参加しました。1日目は、新藤リハビリテーション科医長の「リハビリテーション医療における職種間の連携」の講義に始まり、「リハビリテーション医療における看護の役割」や「リハビリテーションにおける看護の実際」について病棟で行っている看護を紹介しながら講義を行いました。

開講式



1日目は緊張の面持ちで参加した研修生でしたが、交流会を通して緊張がほぐれ、2日目は質問も多くなり研修の効果も高められたのではないかと感じました。2日目は、「病棟・ベッドサイドでできるADL観察・指導の実際」「摂食・嚥下リハビリテーション」など演習を取り入れながら看護師が病棟で実際にできる内容を教えていただきました。今回の研修参加者はリハビリテーション病棟で勤務していない方にも「実践的テクニックやコツを教えていただけて良かった。」「もっと看護師ができることがないかと思っていたので参考になった。」などの意見を頂きました。

「地域医療連携と回復期リハビリテーションにおける退院調整の実際」など2日間の講義全体を通してそれぞれの職種の立場から多職種連携について講義を行いました。研修生の学びの中でも「東京病院で行っている多職種連携についての学びが大きかった。」や「ナースだけでなく、コメディカル全てが患者を中心に同じゴールを共有し、連携して取り組んでいくことが大切であると学んだ。」など多職種連携に対するものも多くありました。私自身今回の研修に対する関わりを通して、自部署の看護を振り返る貴重な機会を頂いたと感じています。

研修の一コマ
～実技演習～



交流会



今回、東京病院の回復期リハビリ病棟は6月より上位基準となり、病床管理や体制作りの課題に取り組んでいます。この研修会を開催して研修生より当院で行っている医療に対してお褒めの言葉を頂いたことは大変励みになると感じました。今後も患者・家族にとってよりよい医療が提供できるように多職種が連携して取り組んでいきたいと改めて感じられました。

第4回 多摩北部NST勉強会のご報告

栄養管理室 主任栄養士 本田真由子

2017年10月26日に第4回多摩北部NST勉強会を開催致しました。

毎年秋に開催しており今年で4回目となったこの勉強会、今回は相模女子大学の准教授を務める望月弘彦先生にご講演いただきました。

「栄養剤はごはんの替わり」という演題で経腸栄養に関する内容でしたが、その知識の広さに圧倒されるご講演でした。

経腸栄養剤は窒素源（タンパク質）の分解程度により「半消化態栄養剤」「消化態栄養剤」「成分栄養剤」に分類されています。その他に濃度や粘度の違いもあり、医薬品扱い・食品扱いのもの全て合わせると実に多くの種類があります。望月先生はそれらを特徴別にわかりやすく区分する方法を示し、自施設での選定や使用についてご教授くださいました。

会場には栄養剤や栄養チューブがずらりと並び、実演を交えてのご講演でした。講演終了後は参加者も実演場所に集まって質疑応答の時間となりました。先生と近い距離で、栄養剤やチューブを実際に手に取りながらだったためか、活発に質問が飛び交う有意義な時間を持つことができました。

アンケートに寄せられたNSTに関するお悩みには、施設特有のものもあれば他施設と共通であるものもあり、地域連携の中でNSTを成長させていくヒントが多くあるように感じました。

今後もNST活動に役立つ内容を企画していきたいと思います。来秋の多摩北部NST勉強会にも是非ご参加下さい。東京病院NST一同、お待ちしております。



写真

(上段) 講演風景

(下段) 望月先生を囲んでNSTメンバー集合

結核について (14)

呼吸器内科 山根 章

前回も、結核の感染についてお話ししました。

要約すると、

- ①結核は空気感染するので、感染源の患者さんから離れたところにおいても感染する可能性があります。
 - ②その証拠として、1950年代にボルチモアの退役軍人病院で行われたモルモットへの感染実験と、以前米国軍艦内で起こった集団感染事例があげられます。ということでした。
- 今回も引き続き結核の感染について考えてみたいと思います。

結核は空気感染するので、空気が遮断されていなければ離れたところにもうつる可能性があります。こう言うと、どこに結核菌を排菌している人がいるかわからないので、知らないうちに結核に感染してしまうかもしれないと大変心配する人もおられるかもしれません。しかし、前回最後に述べたように、結核菌は感染力があまり高くないので過度に心配する必要はありません。前回述べた、モルモットへの感染実験を行ったRileyという研究者が、空気感染する病原体の「感染量子」という概念を考案しました。免疫がない人が1個の「感染量子」を吸い込むと感染するというものです。結核患者がどのくらいの「感染量子」を放出するかが、実際の感染事例で算出されています。

計算するにはいろいろな仮定が必要なので、結果を鵜呑みにはできないのですが、たとえば、ある集団感染事例の原因となった結核患者が放出した「感染量子」は1時間あたり13個だったということです。同じ方法で計算した麻疹（はしか）患者が放出する「感染量子」数は1時間あたり5,580だったということです。これに比べると感染力が高いと思われる結核患者さんでもこれよりもはるかに少ないことがわかります。

また、結核予防会の青木正和先生が著書にお書きになったことによると、結核菌を含んだ粒子を吸い込んだとして、60 μ m以上の大きさの粒子は気管またはそれより上部で補足されてしまい奥には行きません。これより小さな粒子が仮に気管を通過しても気管支の壁には線毛という毛のようなものが生えていて、多くの粒子は線毛に付着します。線毛は運動していて、粒子を外に押し出してしまいます。結局、適当な大きさの粒子でも奥の方まで到達できるものは少数に過ぎないということです。結核菌は気管支の奥の方にある細気管支・肺胞まで到達しないと感染を起こすことはできません。

これらのことから、結核の感染には注意しなければならないけれども、同時に不必要に恐れることはないようにしたいと青木先生は述べられています。

今回のお話はこれで終わりです。次回も結核感染の話をしてみたいと思います。

◆第6回 東京病院 病院祭報告◆

【テーマ】清き地に笑顔と元気と健康を ～もっと知ろう！東京病院 もっと知ろう！清瀬～

第6回東京病院祭は、清瀬市および清瀬商工会の後援を受け、平成29年11月25日の土曜日に行われました。病院祭のテーマにある「清き地」とは、日本武尊が東国遠征で立ち寄った日枝神社にて言われた「清き土なり」に由来する、清瀬の地を暗示しています。病院祭は爽やかな秋晴れの日、約800名の方にご参加いただき、盛況のうちに終えることが出来ました。メイン会場の外来ホールでは、



11時から大田院長の講演、12時30分からは渋谷清瀬市長による講演、引き続いて「土曜の午後はクラシック」コンサート、そしてテレビなどで活躍している青島広志さんによる「元気になる音楽」が行われました。聴講された皆様は、東京病院トップと清瀬市トップによるコラボ講演に熱気が高まり、楽しい音楽・美しい音色に癒され、プロの味を堪能されたことでしょう。青島広志さんのコンサートでは、1つになった会場は皆の大きな歌声で包まれ、フィナーレを迎えました。清瀬市のアイドル（ゆるキャラ®）であるニンニンくんは、今年も東京病院まで駆け付けてくれました。気のせいかな、昨年よりも大きくなったように思います。健康チェック（肺年齢、骨密度、In Body 測定）、健康相談、栄養相談、お薬相談、スライドショー「放射線検査 Q&A」、介護用品展示、職場紹介ポスターなどの企画・イベントを通して、地域の皆様とのふれあいを高め、東京病院を、そして世界医療文化遺産を目指している KIYOSE を「もっと知って」いただけたと思います。次回の病院祭では、地域の皆様とともに企画し、楽しく元気になる病院祭にしたいと考えています。平成30年の秋、どうぞご期待ください。

★第6回東京病院祭実行委員長 小林信之

各担当者から一言 & フォトギャラリー

病院祭メイン会場の外来ホールでは、当院の大田院長より、「息切れはあなどれません」と題した講演が行われました。息切れというと運動不足や加齢のせいにして納得している場合が珍しくありません。しかし、息切れは病初期の症状で身体が警告を発している可能性があります。軽視してはいけません。COPD、喘息、間質性肺炎、肺癌などを中心に、急性に発症する自然気胸、肺血栓塞栓症や呼吸器以外の心不全、貧血症にもふれながら、診断から治療まで分かりやすい話を聞くことが出来ました。渋谷金太郎市長の講演「東京病院の原点は833年開設の病院福祉施設（野塩） 悲田処にちがいない」では、結核という恐ろしい病に立ち向かってきた清瀬の尊い歴史、野塩地域遺跡群の発掘調査に基づく野塩悲田処説について力強く語られ、さらに結核から回復していく患者さんのための「外気舎、黄泉がえりの道は、現東京病院の敷地内にあるパワースポットである」と熱く語る市長のお話に聴衆の皆様は興味深く聞き入っていました。



★講演担当：小林信之

コンサート第1部「土曜の午後はクラシック」チェロ・ピアノコンサートでは黄原亮司さん（チェロ）、林海順さん（アコーディオン）、水野ゆみさん（ピアノ）による「ロンドンデリーのアリア」、「愛の挨拶」、「浜辺の歌」ほか日本の歌メドレーなど、続く第2部「元気になる音楽」では青島広志さん、小野つとむさんにより、「友よ 何と楽しい日」、「誰も寝てはならぬ」、「小犬のワルツ」などが演奏されました。テレビ等で活躍している青島広志さんの話術で会場は笑いの渦に包まれ、小野つとむさんの歌声が広い会場全体に響きわたり、観客と演者が一体となり盛況のうちに幕を閉じました。



★コンサート担当：山本邦夫

第6回を迎えた今回、職場ポスターの掲示枚数はこれまでで最多の30枚でした。色紙や写真を工夫した手作り風ポスターや職場の業務を分かり易く案内したものなど、それぞれ思考を凝らしたポスターをたくさん掲示できました。1階ロビーのポスター掲示コーナーは病院祭の後も、足を停めてご覧になっている方もいらして、多くの方に東京病院をご紹介する良い機会となりました。院長賞はリハビリテーション科、東京病院祭実行委員長賞は栄養管理室、事務部長賞は7西病棟、看護部長賞は新人看護師5グループ、グッドジョブ賞は外来、診療放射線科が受賞しました。

★職場紹介ポスター担当：宮澤佳子



放射線科としてスライドショー「放射線検査 Q&A」と称して、一般撮影、CT、MRI、血管撮影、RI、放射線治療の各場面において患者様からよく質問される事項について、分かりやすい説明を作成し、50型TV2台にて上映しました。来訪者の中には「今度骨シンチを受ける事が不安でしたが、説明いただき安心しました。」とお話しいただきました。手前味噌ですが、今後も活用できる良いものが作成できたと思っておりますので、患者様へ説明のシーン等に幅を広げ利用できたら良いと考えています。

★スライドショー「放射線検査 Q&A」担当：藤田克也



今年の健康チェックは、肺年齢測定、骨密度測定、さらに体重の中身である筋肉、脂肪のバランスの評価などができる高精度体成分分析装置 (In Body) 測定を実施しました。いずれの測定も好評で予定数を超え、その結果をもって健康相談を受けられるなど、健康への関心の高さが窺い知れました。

★健康チェック担当：宮澤佳子・池田美穂子



ベテラン医師2名で、当日の健康チェックの結果についての質問や、通院中あるいは未受診の様々な症状や悩みに対する相談をいただきました。40名近くの方からのご相談にのりましたが、今後の受診や生活にお役立ただければと思います。

★健康相談担当：瀬口健至



お薬についての疑問や不安などの相談を担当させていただきました。時間をかけて分かりやすく丁寧に説明することを心がけて行いましたので、疑問や不安などを和らげることができたと思います。病院祭でなくともお薬について疑問や不安がございましたら、お気軽に薬剤師へご相談ください。

★お薬相談担当：森 達也



栄養管理室では例年同様、栄養相談を行いました。通常栄養相談は医師の指示がないと受けることが出来ませんので、食事のことを聞いてみたかったが聞く機会が無かった、という方々には良い機会だったのではないのでしょうか。ポスター展示では、患者さんから直接いただく温かいメッセージと、行事の度に配布している行事カードも工夫して展示しました。

★栄養相談担当：岡部 司

介護用品の展示では歩行器や杖、靴などの歩行補助具、ベッドや車椅子などの福祉用具の展示を行いました。実際に歩行器や杖を試し、使い心地を確認される方も多くみられました。また、併せて実施した握力測定では、30名程の方が関心を持たれ測定に参加されました。困ったときには介護・福祉用品を上手く活用し、日々の暮らしに役立てていただければと思います。

★介護用品展示担当：内田裕子

今回も清瀬商工会のご協力を得て出店いただきました。清瀬市の特産である人参のジャムやジュースの加工品の販売や清瀬にある菓子店の餅菓子、饅頭の販売、玄関前では清瀬市で収穫された農産物の販売や焼き芋、焼きそば、お団子の販売もあり、多くの来場者が購入されていました。広報については、ケーブルテレビであるJCOMで東京病院祭の宣伝を連日テレビで流してくれました。

★出店・広報担当：山本邦夫



清瀬商工会会長

診療内容 病床数560床

- | | | | | |
|-------------|---------------|-------------|-----------|-------------|
| ○呼吸器センター | ○喘息・アレルギーセンター | ○消化器センター | ○総合診療センター | ○放射線診療センター |
| ●呼吸器内科 | ●アレルギー科 | ●消化器内科 | ●総合内科 | ●整形外科 |
| ●呼吸器外科 | ●眼科 | ●消化器外科 | ●循環器内科 | ●リハビリテーション科 |
| ●リハビリテーション科 | ●耳鼻咽喉科 | ●リハビリテーション科 | ●神経内科 | ●泌尿器科 |
| ●放射線科 | ●皮膚科(入院のみ) | ●放射線科 | ●麻酔科 | ●放射線科 |
| ●緩和ケア内科 | | ●緩和ケア内科 | ●臨床検査科 | ●歯科 |

「人間ドック」・「肺ドック」・「消化器ドック」受付しております。

<実施期間>「人間ドック」：平日の月・木・金曜日のみ(金曜日の人間ドックはペプシノゲン検査選択の方のみ可能)
「肺ドック」「消化器ドック」：平日の月～金曜日

<受診を希望される方は>

完全予約制となっておりますので、ご希望の方は下記の予約センターまでお問い合わせください。

【予約センター：TEL 042-491-2181 受付時間：平日 8:30～15:00】

受付時間：初診 8:30～14:00 (消化器内科の月、金は12:00までの受付) **予約センター 042-491-2181**
再診 8:00～11:00 (受付時間平日8:30～15:00まで)

専門外来案内

専門外来名	診察日	このようなことでお悩みの方は、ご相談ください
禁煙(予約制)	火(午後)	タバコがどうしてもやめられない方。 (当院の禁煙外来は、平成20年1月より保険が適用となりました。)
呼吸器関係外来		
肺がんセカンドオピニオン(予約制)	木(午後)	肺がん治療についてのセカンドオピニオンを希望される方。 [1時間まで10,800円]
咯血(予約制)	火(午後)	咳をともなって気道・肺から出血する状態を咯血といいます。肺アスペルギルス症、気管支拡張症、非結核抗酸菌症、肺結核、肺癌の患者さんにおこります。ご相談ください。
間質性肺炎(予約制)	水(午前)	この病気は「息切れ」と「から咳」がよくある症状です。 治療が難しく、膠原病に合併する場合もあります。
非結核性抗酸菌症	水(午前)	咳や痰が出て、血痰があるなど一見結核にみえますが違います。 結核とそっくりの症状がこの疾病です。他人への感染はありません。
いびき COPD (睡眠時無呼吸症候群の検査)	月～金(午前)	ご家族などから「いびきが大きい、長く続く」あるいは「ねている時に息が止まる」などと言われた方。COPDを疑われたり、COPD呼吸リハビリを御希望の方。
難治性喘息外来(予約制)	月・水・金(午前)	通常の喘息治療でうまく喘息がコントロールされていない難治性喘息の方。
ものわすれ外来(予約制)	水(午後)、木(第1・3週のみ)	最近ものわすれのひどい方、アルツハイマー病などが心配な方。 (あらかじめ神経内科を受診して下さい。)
高次脳機能外来	木(第1週・第3週のみ)	失語・失行や健忘などの診断、リハビリテーションへの紹介など(要神経内科外来受診)。
肝胆膵(予約制)	金(午後)	肝臓癌、胆嚢癌、胆管癌、膵臓癌や胆石症など、肝胆膵疾患の手術のご相談、お申し込み、セカンドオピニオン等に、専門の医師が対応いたします。
地域リハビリ相談	木(午前)	連携医の先生方からかかりつけの患者様で、運動・言語・嚥下機能に問題があり、リハビリテーションをご希望の方。(かかりつけ医の情報提供書が必要です。)

医療連携室よりお知らせ 患者様をご紹介いただく場合(医療機関)

外来診療の予約：診療依頼書をFAX送信して下さい

CT・MRI検査の申し込み：医療連携室へお電話下さい

医療連携室

FAX 042-491-2125 (8:30～17:15)

TEL 042-491-2934 (8:30～17:15)

交通

- 西武池袋線 清瀬駅南口よりタクシー5分、または南口バス2番乗り場より久米川駅行・所沢駅東口行は東京病院北下車、下里団地行・滝山営業所行・花小金井駅行は東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR武蔵野線 新秋津駅よりタクシー10分、または西武池袋線に乗り換え。
- 西武新宿線 久米川駅北口より清瀬駅南口行で東京病院北下車。または花小金井駅北口より清瀬駅南口行きで東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR中央線 武蔵小金井駅より清瀬駅南口行のバス路線があります。
- 東武東上線 志木駅南口より清瀬駅北口行のバス路線があります。
- お車でお越しの際は正面よりお入り下さい。

(駐車場265台)

30分以内 無料

31分～4時間 100円

以後1時間毎 100円

(20時15分～7時 1時間毎300円)

WEB検索

東京病院

検索

